

図画工作科学習指導案

指導者 呉市立広小学校 安永 明日香

- 1 日 時 平成21年10月21日（水）第5校時
- 2 学 年 第2学年3組 28名
- 3 場 所 図工室
- 4 題材名 ふき絵で楽しく「海の中であそぼう」
- 5 題材について

○ 題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作 第1学年及び第2学年の目標（2）「造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。」に基づき、内容「A 表現」（2）「感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。」及び「共通事項」（1）を受けて設定している。

この題材においては、次の指導事項「ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。」「イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。」「ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。」のねらいを達成するために、水彩絵の具を用いて、偶然の形や色などを基に表したいことを工夫して表すことができるようにする。

今回取り上げる技法「吹き流し（ドリッピング）」及び「マーブリング」は、新しく学ぶ技法ということで、児童は興味・関心をもって生き生きと取り組むことができると考えられる。

○ 児童観

本学級の児童は、図工の時間を楽しみにしており、どの児童も笑顔で楽しく取り組む姿が見られる。また、新しく学ぶ表現方法（技法）については、興味をもって取り組む児童が多く、特に意欲的に活動することができる傾向にある。1年生の9月には、題材「ひまわりと小人たち」を学習し、クレパスによるぼかし絵に取り組んだ。ティッシュを用いて勢いよくひまわりの花びらをこすることで、どの児童も楽しみながら長く大きく伸びるひまわりの花を表現することができた。1月には、題材「たのしいな すごいな」の学習で、染め絵の具を用いた板締め絞りに挑戦し、様々な色で染められた和紙を用いた作品づくりに取り組んだ。加えて同題材において、夜空いっぱいに散らばる星をスパッタリングの技法を用いて表現する活動も行った。

2年生になり、水彩絵の具を用いた作品づくりに挑戦し、6月の「わっ！すごいな」の学習では、初めて水彩絵の具のみで着色をする作品づくりに取り組んだ。水の量により色の濃淡が変わっていく様子や、色を混ぜることにより新しい色が生まれる不思議さを一人一人が感じることもできた。

一方で、水彩絵の具を使うことに抵抗を感じている児童や、表したいことが思い付かず、かき始めるのに時間がかかる児童がいるという課題がある。

○ 指導観

指導にあたっては、次のような点に留意したい。

第一次では、海の中の様子をかくことを知らせ、イメージを膨らませる。そのために、海で遊んだ経験や、海の中にはどのようなものがあるかなどを発表し合わせ、友達の考えをヒントにしながら想像を膨らませることができるようにする。また、サンゴ礁をかく際に筆は使わず、今回初めて取り上げる「吹き流し（ドリッピング）」という技法を用いて表現していく。この技法を用いることで、偶然できる線の面白さを感じながら、どの児童も楽しく取り組むことができると考える。加えて、台紙作りの際にはマーブリングの技法を用いて海の波の様子を表現することで、児童がより海の中の様子について想像を膨らませながら作品づくりに取り組むことができるのではないかと考える。ドリッピングとマーブリングは、初めて扱う技法であるため、丁寧に順序を追って説明を行うようにするとともに、表現の面白さを十分に味わわせたい。作品の完成度を上げることよりもつくりだす過程に重点を置き、児童一人一人がワクワクしながら取り組めるような声かけをしていきたい。

第二次では、出来上がった作品を見ながら友達の作品の面白さや工夫している所を見付け合わせるようにする。鑑賞カードを活用して、友達のよさを認め合うことで、児童一人一人がこれからの表現活動に自信をもって取り組めるようにしていきたい。

6 題材の目標

- 海の中の様子を想像しながら、新しい技法（ドリッピング及びマーブリング）を用いて絵に表す楽しさを味わおうとする。（造形への関心・意欲・態度）
- 偶然できた線から思い付いて、海中の様子を表すことができる。（発想や構想の能力）
- 新しい技法（ドリッピング及びマーブリング）を生かして、海の中の様子を工夫して表すことができる。（創造的な技能）
- 自分や友達の作品の面白さや工夫している所を見付けることができる。（鑑賞の能力）

7 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
海の中の様子を想像しながら、新しい技法を用いて絵に表す楽しさを味わおうとしている。	偶然できた線の形を生かして、画面いっぱいに広がる海中の様子を表している。	ドリッピングとマーブリングの表現方法を使い、表し方を考えて海中の様子を工夫して表している。	自分や友達の作品を見て、見付けた面白さや工夫したところをお互いに話している。

8 指導計画（全6時間）

次	時	学習内容	評価					
			関	発	創	鑑	評価規準	評価方法
一 (5)	1 2	「サンゴ礁いっぱい！ キラキラの海をかこう。」 ○海で遊んだ経験や、海中にはどのようなものがあるかを話し合い、海中の様子を想像する。 ○マーブリングの表現方法を用いて、台紙をつくる。	◎				ア 海中の様子を進んで想像しようとしている。	行動観察 (発言)
			○		◎		ア 楽しみながら新しい技法に取り組んでいる。 ウ マーブリングの技法を用いて工夫しながら海となる台紙をつくっている。	行動観察 作品
	3	○ドリップングの表現方法を用いて、画面いっぱいにサンゴ礁をかく。(本時)	○		◎		ア 楽しみながら新しい技法に取り組んでいる。 ウ ドリップングの技法を用いて工夫しながらサンゴ礁をかいている。	行動観察 作品
	4 5	○海中を泳ぐ魚や自分をかき、配置を考えて画用紙に貼る。 ○周りの様子にも想像を広げて絵に表す。	○	◎			ア 海中の様子を想像しながら表現しようとしている。 イ 偶然できた線の形を生かして、海中の様子を工夫して表している。	行動観察 作品
二 (1)	1	「友達の作品を見てみよう。」 ○自分や友達の作品について、工夫した所や気に入っている所を見付けたり話したりする。				◎	エ 自分や友達の作品を見て、見付けた面白さや工夫したところをお互いに話している。	行動観察 (発言) 鑑賞カード

9 本時の展開

(1) 本時の目標

ドリップングの表現方法を理解し、楽しみながらサンゴ礁をかくことができる。

(2) 準備物

共同の絵の具、筆、画板、新聞紙、四つ切画用紙、練習用画用紙、ストロー

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1. 作品づくりの見通しをもたせ、本時の課題を確認する。 「サンゴ礁いっぱい！キラキラの海を描こう。」	○前時の活動を想起し、海で遊んだ経験や、本やテレビからの情報を基に、海中の様子を想像させる。 ○想像したことを発表し合うことで、友達の考えをヒントにしながら、より想像を膨らませるようにする。 ○サンゴ礁の海の写真を提示することで、より興味をもって活動に取り組めるようにする。	
2. ドリップングの方法について知る。	○ 本時では筆は使わないでかくことを知らせ、教師の模範を見せることでドリップングの方法について理解させる。 ○ 練習用の小さな画用紙を用意し、一度練習してから本番の画用紙にかいていくようにする。	ア 楽しみながら新しい技法に取り組んでいる。（行動観察）
3. ドリップングを使って、サンゴ礁をかく。	○ 製作の過程を楽しめるよう、時間を十分確保するようにする。 ○ 水の量や色、息を吹きかける向きなど、一人一人が試行錯誤しながら取り組めるよう声かけをする。 ◆ ドリップングが上手いいかない児童に対しては、画用紙に置く絵の具の量を増やし、調整するように声をかける。	ウ ドリップングの表現方法を理解し、工夫しながらサンゴ礁をかいている。（行動観察、作品）
4. 本時の活動の感想を出し合う。	○ 活動を通して楽しかったことや難しかったことなど、本時の感想を班内で出し合わせた後、代表者に発表させてまとめをする。	
5. 次時の学習について確認する。	○ 次時は海中を泳ぐ魚や自分をかいていくことを知らせ、学習の見通しをもたせる。	
6. 片付けをする。	○ 班の友達と協力して片付けができるように、声かけをする。 ○ BGMをかけることにより、時間を意識して片付けをさせる。	